

茨城県議会議員

とこい洋治 県政報告NEWS

元気いっぱい県議会活動!!

皆様の応援に感謝
これからも全力投球
します。



▲3月8日、友部町内の県総合流通センター建設予定地で火災発生。焼損面積18.6ha。常井県議は、県に対し再三にわたって草刈りを要求していたが、一番心配していたことが現実になってしまった。人命、財産に被害が及ばなかったことが、不幸中の幸いであった。

常井県議は、本会議終了後、直ちに現場にかけつけて、消防関係者の労をねぎらった。改めて、きちんとした保全対策と地域活性化のために早期着工への努力を誓った。

保健福祉委員会で活躍

常井洋治県議は、皆様から13,630票をいただきトップ当選を果たして以来一年余りを経過しました。その間、皆様の熱いご支援に感謝しながら、元気はつらつ精一杯県議会活動にまい進してまいりました。初めての一般質問では、西茨城郡の地域の課題を中心に質し、大きな成果を挙げてまいりました。

委員会は、総務企画委員会、決算特別委員会（2期連続）に所属し、各委員会では毎回必ず質疑を行い執行部と議論を戦わせています。常井県議は、毎日、とにかく真面目にコツコツと西茨城郡と県政の発展のために、活動を続けております。この度、委員会の所属替えにより保健福祉委員会委員に選任されました。これからも全力投球を続ける、常井県議に応援をお願いします。



一緒に創ろう!

平成12年

第1回定例県議会を終えて

友部町、岩間町、岩瀬町

ふるさと西茨城郡の新時代

平成12年第1回茨城県議会定例会は、2月29日から3月24日まで25日間開かれ、平成12年度予算、11年度補正予算、10年度決算の認定及び条例など130議案を可決して閉会しました。常井洋治県議は、窮迫する県財政の状況をかんがみながら、財政再建プランの中味や、西茨城郡を取り巻く施策の推進などを、委員会質疑を通じて、鋭く質しました。

平成12年度一般会計予算を可決

1兆755億7,300万円

(11年度当初比0.1%マイナス)

予算の特徴

1. 予算規模は、2年連続の減、地方消費税関連歳出を除く、実質の伸びでは、3年連続の減となった。
2. 県税収入は、県民税利子割が増加（郵便貯金の集中満期到来により対前年度比140億円増）するものの、対前年度比約1.5%（約48億円）の減となった。県税収入の大宗を占める法人2税（法人事業税、法人県民税）は、国の方針による恒久的な減税や景気低迷等の影響により、ピークであった平成3年度の1,500億円に比べて2分の1以下の737億円（対前年度当初比13.4%の減）となった。
3. 歳出では、職員給与カット（▲2.5%）等により、義務的経費が当初予算ベースで初めて減（▲1.3%）になった。投資的経費は、9.3%減となった。特に県単公共事業については、平成11年度に引き続き15%減とした。
4. 県の借金である県債発行残高は、12年度末で1兆3,300億円と見込まれ、一般会計予算を大きく上回るようになった。
5. 景気・雇用対策や少子・高齢化の進行に対応するための施策、原子力防災体制の強化等に重点配分した。

常井県議は可決に賛成

極めて深刻な県財政危機を乗り切り、「財政再建団体」への転落を回避するため、県職員の給与カットという、大きな犠牲まで払ってあらゆる工夫と努力をして編成した予算案に対し、常井県議は、基本的に評価しました。委員会では、①メリハリが未だ十分でないこと、②税財源の確保、③新しい財政再建プランの徹底実現などを質し、本会議で可決に賛成しました。

ートについて、300万円の調査費が計上されました。同病院の地域災害医療センターとしての機能向上と、地域住民の救急医療への期待に応えるものです。質問後の常井県議の働きかけが実りました。実現に向けて引き続き努力します。

岩間消防署へ高規格救急車配置

笠間地方広域事務組合で高規格救急自動車（より高度な救命措置が可能な救急車）1台を整備する事業に対して、県（国）が補助金支出（880万円）。

岩瀬曾根（仮称）アパート建設に着手

岩瀬町入郷地域活性化のため、若い家族向け低家賃住宅を県営住宅として建設する。全体計画は、60戸、3階建5棟。12年度は、3階建1棟（12戸）を建設予定。猿田小学校などの生徒減少にも対応した施策であり、常井県議は役場とともに、推進しております。



▲桜花満開の岩瀬町立猿田小。県営住宅建設で生徒増が期待される。

地元予算トピックス

中央病院に専用ヘリポート 調査委託費計上

(一般質問の成果)

常井県議が11年第3回定例会の初質問で取り上げたヘリポ

小・中学校へ社会人TTを配置

国補TT（ティームティーチング）加配等のない小・中学校へ教員免許を有する社会人TTを1人配置する。

(県補助10/10)

郡内配置予定校 友部町：大原小
岩間町：二小、三小
岩瀬町：南飯田小

総務企画委員会(要約)

畜産試験場跡地利用について 本格的に検討開始。暫定利用決まる。

常井委員…5月に移転する畜産試験場跡地利用について、12年度予算でどう対応していくのか。

地域計画課長…企画部としては、予算計上していないが、必要に応じて調査調整費等で対応していく。

常井委員…今後どのようなスケジュールでどのような方向づけをしていくのか。

地域計画課長…県庁内関係各課で勉強会をしている。民間活用も含めて検討している。ハウスメーカーや建設会社などを呼んで勉強会を行っている。

景気が低迷中で民間活用も難しいが、公団等も含めていろいろな切り口から幅広く検討している。

常井委員…私の一般質問の答弁で「地元自治体と連携を密にしながら、協議・調整を図っていく」と言ったが、その範囲はどこまでで、どういう協議をしているのか。また、地域住民の声は、どのように反映されるのか。

地域計画課長…現在は、友部町と事務的に話をさせてもらっている。特に雨水排水路の整備、道路、下水道等について詰めている。

常井委員…暫定利用の方向付けはどのように考えているか。

地域計画課長…基本的には畜産課で詰めている。採草放牧地については酪連など第三者に委託して管理していくと聞いている。

※1.県畜産課では、全体面積約40haのうち現在の飼料畑(17.5ha 県道南側)については、移転後、県酪農業協同組合連合会へ管理を委託(主に友部・岩間町内酪農家)し、現況と同様の草地としての保全をすることになりました。また、既存建物については、移転後閉鎖し、一部取り壊す予定。

※2.跡地利用については、常井県議が重要課題として、対応を迫ってきました。それに応じて、県では、4月から畜産課に専任の副参事を置き、農林水産部と企画部が共同で、本格的な跡地利用を検討していくことになりました。地元や住民の意見も十分反映できるように常井県議は努力をします。

※3.現在、友部リトルリーグが野球場として使用している部分は、移転後も、当分の間、現在と同じように使用できるようになっております。常井県議が菅原毅監督と、県に対して要望した結果です。

「網渡りの財政運営」を質す

常井委員は、財政再建プランの内容について、公債費及び県債残高のピークの時期と金額を質しました。これに対し、一定の条件を前提にするが公債費は15年度以降に1400億円から1450億円の間で推移し、県債残高は、17年度に1兆5000億円近くのピークを迎えると想定しているとの答弁がありました。改めて、財政健全化実現の大変さが浮き彫りにされました。

「地方分権推進プラン」の策定を提言

同委員は、4月の地方分権一括法の実施に伴い、この好機をきちんと受け止めて、「行政革命」とも言えるものを実現するためにも、県で地方分権推進プランを策定すべきだと提案しました。今後県は、どのような形で地方分権を進めていくかを①人材の育成②税財政基盤の確立③市町村との関係④県の役割等について、今後の自治体経営の基本方針として県の内外に示して、県政運営をしていくことが大事であると、策定の現実を迫りました。

充実化すすむ 県立中央病院

入院患者の31% } は友部、岩間の住民
外来患者の43%



- ・救急医療を更に拡大—常井県議に答弁
- ・臨界事故で医療救護活動
- ・第二原子力医療センター(仮称)を整備

常井県議が決算特別委員会での質疑で、更なる救急医療の充実を求めたことに対し、保健福祉部長は今後、病院の現場スタッフからの要請もあるので、民間医療機関との調整をしながら救急医療体制の一層の拡大を図ると答弁しています。地元住民にとっては、心強い限りです。

昨年9月30日の東海村の臨界事故の際に中央病院では、県の災害対策本部の要請を受けて速やかに「医療救護班」を編成し、救護所(水戸日赤病院)へ翌10月1日から救護所が閉鎖される3日まで延べ4班30名の派遣を行いました。

医療救護班は、医師、看護婦、放射線技師等から構成されますが、今回は放射能事故ということから内科系の専門医を中心に班を編成し、副院長や婦長といった管理職も率先して現場へ

出て行きました。

救護所では放射能の測定や健康相談などに当たりました。夜間・休日を問わず相談や診療ができる体制をとり、約280名の方々の相談等に当たりました。

また、臨界事故において中性子線の放出や、放射線被ばくに対する住民の不安が多かったことを踏まえて、測定機器を備えた検査体制の整備を図るため、同病院構内へ第二原子力医療センターが12年度中に建設されます。



▲臨界事故で、住民の健康相談に応じる中央病院スタッフ。

要望に応じて

とこい洋治は、直ちに行動しました！



▲友部町小原、県道杉崎友部線の側溝整備。11年度施工済。常井県議は、引き続き整備を進めます。



▲岩間町内の桜川の堤防が崩壊の危険ありとの緊急要望。常井県議は急きょ現場で県土木部へ説明した。11年度内に発注済。



▲県道杉崎友部線。友部町内の水戸坂で、松山団地の方が夜間歩行中事故にあったため、住民から歩道と道路灯の設置の要望がありました。常井県議は役場とともに県に要望、道路灯3基を設置しました。



▲県道つくば益子線。岩瀬町元岩瀬地内の住民から、悪路による家屋の振動が激しいとの苦情が常井県議に寄せられた。早速、全面補修を実施しました。



▲総務企画委員会の調査で2002年ワールドカップ開催へ向けて整備中のカシマサッカースタジアムを視察。(左端)隣から、石川委員長、加藤、細谷委員(11年7月)



▲県議会野球チームで活躍。30人の部員の中で、新人ながら1番センターでレギュラー級で出場。だが、通算打率は、2割3分とイマイチの成績でした。(11年8月)



▲岩間南部土地改良区の皆さんと巴川の河川改修を県土木部幹部に要望。先頭立って説明する。(11年11月)



▲岩間三小通学路への歩道設置の要望に応じて、県土木部と現場に赴きPTA役員の皆さんと協議した。子供たちの安全を守るため、がんばります。(11年7月)



▲県庁見学を訪れた女性団体の皆さんと記念撮影。県議会議事堂にて。(11年12月)



▲友部町内宿大沢線の鴻巣高架橋の開通式に臨み、地権者、地元住民、関係者の皆様に感謝の意を表した。残る1,200mの1日も早い完成を強く願うものである。(12年2月)



▲聴覚障害者協会の皆さんとの新年会。常井県議は、手話でのあいさつに挑戦した。友部町老人憩の家「はなさか」にて。(12年1月)

燃える郷土愛。全力投球!!

皆様のご支援により、県議としてスタートしてから間もなく1年4か月になります。その間私は、13,630票の1票1票の思いを大事にしながら、県議会活動に励んでまいりました。そして、皆様の声に耳を傾け、県政に反映する姿勢を一貫して堅持してきました。幸い、県職員時代の仲間や先輩、後輩の良いアドバイスと理解を得て、新人の私にとっては勿体ない程の成果を挙げることができました。深く感謝申し上げますとともにこれは私の大きな財産ですので、今後とも大切にして協力をお願いしていきたいと思っております。

私はこれからも、県政全般、西茨城郡の課題を的確に把らえ一歩一歩着実に、そして大胆に主張していきたく考えております。

この度私は、保健福祉委員会に所属することになりました。県職員の新採時も医療福祉課に配属されましたので初心に帰って、4月からスタートした介護保険の円滑な運営をはじめ21世紀の健康づくり、福祉・医療の充実に向けて努めてまいりたいと思います。

私常井洋治は、皆様の御用聞きに徹してまいります。今後とも引き続き絶大なるご支援をお願いいたします。



茨城県議会議員

常井洋治